

岩の間から蒸気やお湯が噴出する荒涼とした風景から、ここ小涌谷は「小地獄」と呼ばれていて、山の中には閻魔像が祀られていきました。「七湯の枝折」にも取り上げられていますが、温泉としての湯量が少なかったため、「奇観地」として紹介されました。

明治6年、明治天皇皇后両陛下の箱根行幸啓の際に、天皇の訪問先が地獄というのは不吉であるとの理由から「大地獄・小地獄」を「大涌谷・小涌谷」に改名しました。

明治10年代から小涌谷の観光開発が始まり、三河屋旅館や、小涌園貴賓館、三井翠松園など、別荘や旅館として建てられた歴史ある建築が数多く残ります。



小涌谷がまだ、「小地獄」と言われたころの名残を伝える閻魔像。大きく裂けた口に彩色された赤い顔料が残っています。小涌谷は「奇観地」として「七湯の枝折」に取り上げられ、多くの観光客が訪れたことは、日本のテーマパークのはしりかもしれません。

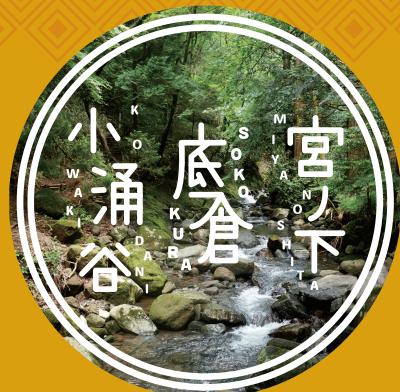
文化庁の令和2年度文化芸術振興費補助金(地域文化財総合活用推進事業)の一環として作成しています。



箱根町文化遺産活性化実行委員会
〒250-0315
神奈川県足柄下郡箱根町塔ノ沢 74(福住楼内)

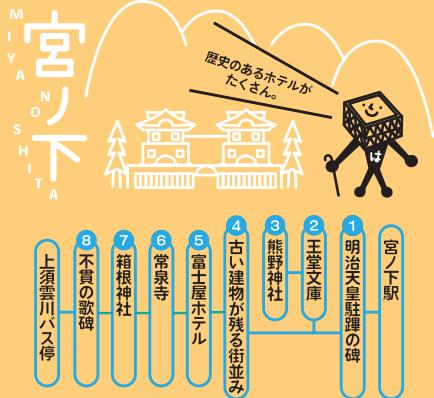
監修 箱根町教育委員会

HAKO BURA



宮ノ下と底倉は、江戸時代以前から湯治客が訪れ賑わった温泉地。庶民だけでなく、大名湯治も行われました。近代には、宮ノ下周辺に外国人観光客が訪れるようになります。

江戸時代の風情と近代のハイカラな風情が交じり合う、街歩きを楽しみましょう。



全長 1200m 所要時間約 45分



全長 1000m 所要時間約 30分

**7 三河屋旅館**

三河屋旅館は、明治16年(1883)創業の老舗旅館で、創業者は横浜蓬萊町出身の榎本猪三郎。その息子、恭三は旅館経営だけでなく、小涌谷温泉の開発に功績を残し、県議会副議長も務めた人物でした。

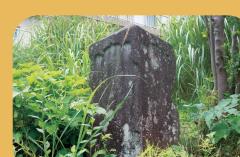
**1 小涌谷駅**

大正8年(1919)、小田原電気鉄道の強羅延伸の際に開業した駅です。この時、小田原電気鉄道のライバル富士屋鉄道が芦ノ湖畔までバス路線を持っていたため、小涌谷駅からバスを運行。電車とバスの乗り継ぎで対抗しました。

この激しい争いは昭和7年(1932)に両社のバス事業が統合されるまで続きました。

**2 間魔像**

宮ノ下の常楽寺の持つ小涌谷墓地に間魔大王の石像があります。「新編相模國風土記稿」に記述があり、この辺りが「小地獄」と呼ばれた江戸時代当時にすでにこの像があったことがわかります。

**3 庚申塔（道標）**

墓地から出て、坂道をやや上ったところに、目線よりもっと高い石垣の上にあります。「庚申供養」という文字の下に蓮の花が彫られています。

側面には「ごちくみち」「はこねみち」と彫られていることから道標の役目もあったと思われます。

**5 道祖神と道標**

小涌谷集会所には2基の道祖神と1基の道標があります。

道祖神は大正14年(1925)のもので、3組あった子供供が建てたものです。子供組お祭りのときなどに集まり、年長のものが率いて村の仕事をおこなうもので、現代の子供会のようなものです。

道標は「そくら村」「やの下」「どう可志満(堂ヶ島)」「小涌谷」「きかみち(木賀道)」の文字が見え、中でも「小涌谷」は「小ぢごく」を彫りなおしていることがわかります。

現在は藤田觀光が所有しています。

道標

**7 八千代橋**

国道138号線の蛇骨川にかかる橋で、現在の橋は昭和42年(1967)に架けられました。江戸時代、底倉から木質へ行くには蛇骨川をさかのぼり、現在の牛小屋橋が架かるあたりまで遠回りしなくてはなりませんでした。

明治6年(1873)に地元の旅館の主人の努力により、現在の太閤石風呂があるあたりに「萬年橋」という木橋が架けられ、その後、幾度かの架け替えの後、現在の場所になりました。

八千代橋の名前は宮ノ下御用邸ができた時に「君が代」の歌詞から取られたものです。

小涌谷を歩く

小涌谷バス停 小涌谷駅

**4 つたや**

箱根町指定重文の「七湯の枝折」はこの宿に伝えられたもので、現在は郷土資料館に寄贈されています。

「七湯の枝折」は文化8年(1811)に文窓と弄花の二人によってまとめられた全10巻からなる箱根温泉のガイドブックで、温泉の効能入り方、湯治場と周辺の見どころ、土産物まで紹介されています。

**6 太閤石風呂**

蛇骨川の浸食で自然に湧き出た温泉の一つです。豊臣秀吉が小田原攻めを行った際に兵士が疲れを癒したと伝えられるところからその名前が付きました。

この桂華は古くから薬効があり、底倉で多く取れること、止血や皮膚病に効くことが「七湯の枝折」にも紹介されています。

**3 箱根駅伝の碑**

昭和31年(1956)12月、翌正月の箱根駅伝に向けた練習中に専修大学の選手が意識朦朧となり、車道を走るバスと衝突する事故がおき、帰らぬ人となりました。その2年後に宮ノ下温泉協会の手によって建てられ供養碑です。

5 蛇骨渓谷

蛇骨川が3万7千年前の地層を削ってできたものです。蛇骨の名前の由来は、このあたりの湧き出る温泉に含まれるケイ素が沈殿してできた「桂華」が白く溜まり、蛇の骨のように見えることから名付けられたそうです。

この桂華は古くから薬効があり、底倉で多く取れること、止血や皮膚病に効くことが「七湯の枝折」にも紹介されています。

**3 新田義隆の碑**

新田義隆は南北朝期に南朝側についた武将で、ここ箱根で殺害されたと伝えられています。

この碑は底倉の仙石屋旅館にあつたものを現在地に移したもので、

昭和31年に宮ノ下温泉協会によって建てられたものです。

2 道標

菊華荘の門前にある道標も、これは国道1号や箱根峠により、明治27年(1894)にここに設置されました。この碑は底倉の仙石屋旅館にあつたものを現在地に移したもので、

「右 そ古くら(底倉)」

「左 小わき谷(小涌谷)」

とあります。

菊華荘の門前にある道標も、これは国道1号や



明治28年(1895)、宮ノ下御用邸として建設され、以後、皇室の別荘として利用されました。

戦後、富士屋ホテルに払い下げられ、現在は、国登録有形文化財として、食事のできる旧御用邸建築として貴重な存在です。

ホテル前 底倉を歩く ホテル前 バス停

ホテル前 バス停

この先は 大平台



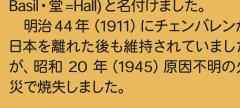
明治6年(1873)、明治天皇皇后両陛下が避暑のため約3週間にわたり、以前ここにあった奈良屋旅館に宿泊されたことを記念して建てられた碑です。

奈良屋旅館は江戸時代前期、5代将軍綱吉の頃、創業したと伝わる老舗旅館でした。江戸時代には大名湯治が行われ、明治になってからは木戸孝允、副島種臣、大隈重信など政府高官も宿泊していました。



宮ノ下の熊野神社は宮ノ下温泉の鎮守とされ、「宮ノ下」の地名はこの熊野神社の下に開けた温泉場地から名付けられたと言われています。

箱根の古い温泉場には熊野神社が祀られています。これは和歌山県の熊野温泉で知られていたことと、熊野音誦などと「よし」と「湯屋」と通じるため温泉の守り神と信じられています。



バジル・ホール・チェンバレンはイギリスの日本研究科です。明治時代にお雇い外国人として来日し、日本に38年間滞在する間、東京文部省文部省にもなりました。俳句を英訳した最初の人物であります。

チェンバレンは明治17年(1884)頃、富士屋ホテルに滞在し、一年の大半を過ごすようになりました。明治27年(1894)にここに書庫を建て、大量的蔵書を東京から運び込みました。そして自身の名にちなんで「王堂文庫」(王=Basil・堂=Hall)と名付けました。

明治44年(1911)にチェンバレンが日本を離れた後も維持されていましたが、昭和20年(1945)因不明の火災で焼失しました。

**9 三井翠松園本館**

明治時代末、三井家や三井財閥の重役が小涌谷に別荘を求めて、一大別荘地になりました。三井鉱山の監査役等を務めた三井高麗の別荘でした。現在は、「箱根・翠松園」の料亭として活用されています。

**3 庚申塔（道標）**

墓地から出て、坂道をやや上ったところに、目線よりもっと高い石垣の上にあります。「庚申供養」という文字の下に蓮の花が彫られています。

側面には「ごちくみち」「はこねみち」と彫られていることから道標の役目もあったと思われます。

**5 道祖神と道標**

小涌谷集会所には2基の道祖神と1基の道標があります。

道祖神は大正14年(1925)のもので、3組あった子供供が建てたものです。子供組お祭りのときなどに集まり、年長のものが率いて村の仕事をおこなうもので、現代の子供会のようなものです。

道標は「そくら村」「やの下」「どう可志満(堂ヶ島)」「小涌谷」「きかみち(木賀道)」の文字が見え、中でも「小涌谷」は「小ぢごく」を彫りなおしていることがわかります。

現在は藤田觀光が所有しています。

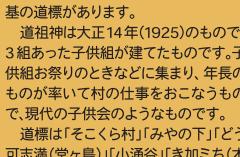
道標

**10 箱根小涌谷貴賓館・迎賓館**

ユネッサンの裏手に2棟の和風建築があります。

平屋建ての建物貴賓館は、大正7年(1918)頃、実業家・藤田平太郎の別荘として建てられました。関東大震災前の貴重な別荘建築です。

大きな屋根が特徴の迎賓館は、明治8年(1875)今の愛川町に建てられた名主の家を移築したものです。以前は芦薈だった屋根は大正3年(1914)にイギリスから輸入された波板鉄板で葺かれています。



現在は藤田觀光が所有しています。

**6 不買の歌碑**

天正11年(1583)建立された曹洞宗のお寺です。境内には万歳牛と呼ばれる石で作られた牛の像があります。

明治37年(1904)、幼いころの昭和天皇が富士屋ホテルに来られた時に、日露戦争勝利の知らせを聞いた住民が発した万歳の声を聞き、この牛の像に飛び乗り万歳をしたという逸話から名付けられました。

「あれを見よ 深山に花ぞ 咲きに
ける 真心尽くせ 人知れずとも」

**6 養食山常泉寺**

天正11年(1583)建立された曹洞宗のお寺です。境内には万歳牛と呼ばれる石で作られた牛の像があります。

明治37年(1904)、幼いころの昭和天皇が富士屋ホテルに来られた時に、日露戦争勝利の知らせを聞いた住民が発した万歳の声を聞き、この牛の像に飛び乗り万歳をしたという逸話から名付けられました。

**4 古い建物が残る街並み**

宮ノ下の中央を走る国道1号は、江戸時代には箱根七湯を結ぶ七湯道として湯治客が行き交いました。明治時代にはいち早く人力車や馬車が通れる車道として整備され、明治39年(1906)に日露戦争勝利の知らせを聞いた住民が発した万歳の声を聞き、この牛の像に飛び乗り万歳をしたという逸話から名付けられました。

今では、明治から大正期にかけて作られた土産物店などの建物が並び、往時の雰囲気を現代に漂わせています。